

2017年  
看護職員の労働実態  
調査結果報告

# 調査実施の概要

## ■調査目的

- (1) 看護職員の労働と健康の実態を明らかにする。
- (2) 大幅増員と夜勤・交替制労働の改善のために役立てる。

## ■調査対象

- (1) 病院、診療所はじめ、訪問看護や老健施設などの介護施設も含む。
- (2) 看護職員（保健師、助産師、看護師、准看護師）
- (3) 日本医労連の組合員を基本とする。

■調査期間                    2017年5月1日～2017年7月25日

■回収枚数                    33, 402枚

## 調査結果の特徴

- ◆依然続く、深刻な人手不足、  
過酷な夜勤・交替制労働
- ◆切実に求められる夜勤改善  
と大幅増員

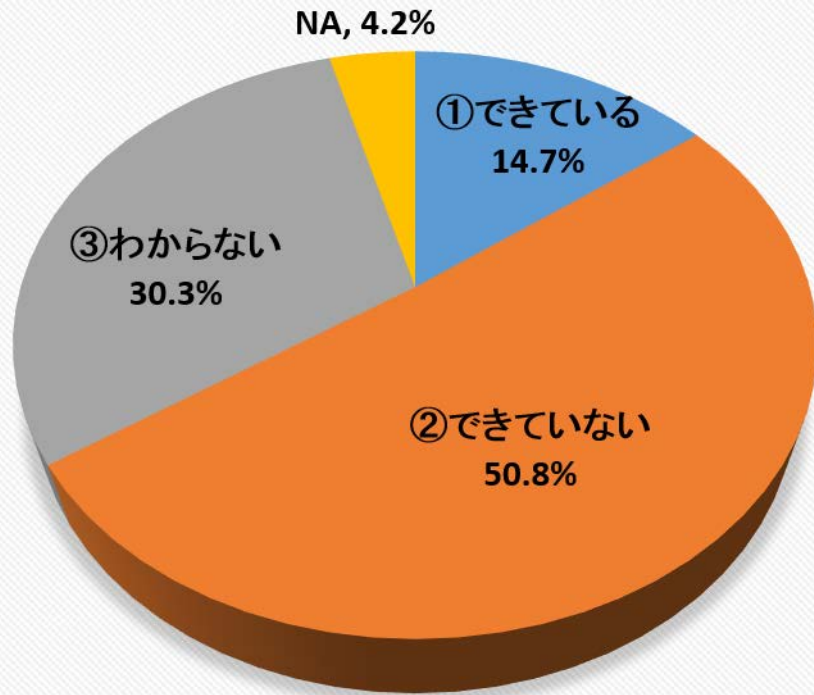
仕事に  
対する意識

# 仕事の達成感

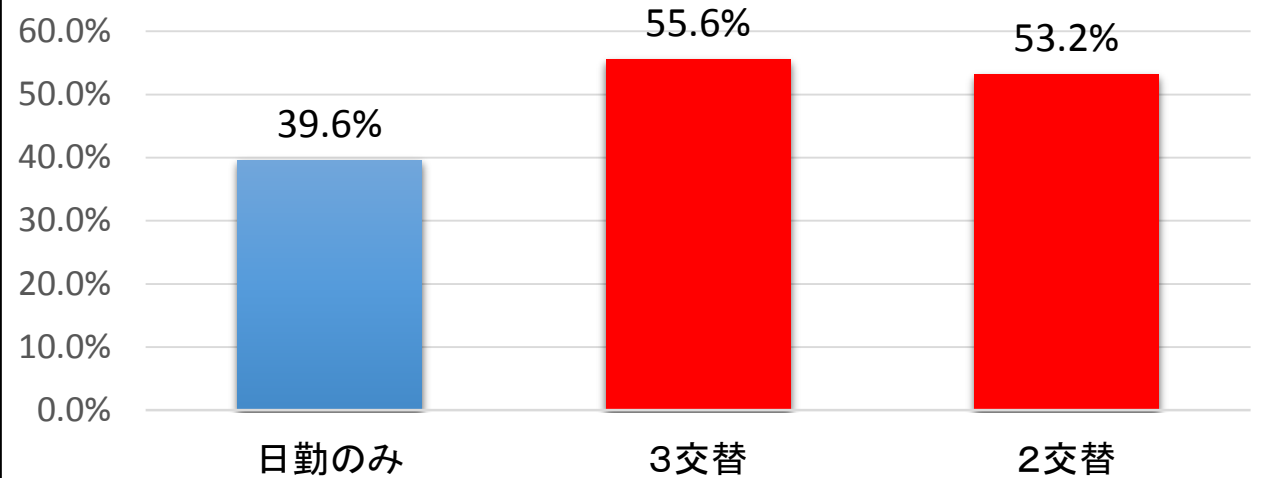
# 十分な看護が「できていない」約5割

仕事に  
対する意識

十分な看護ができているか



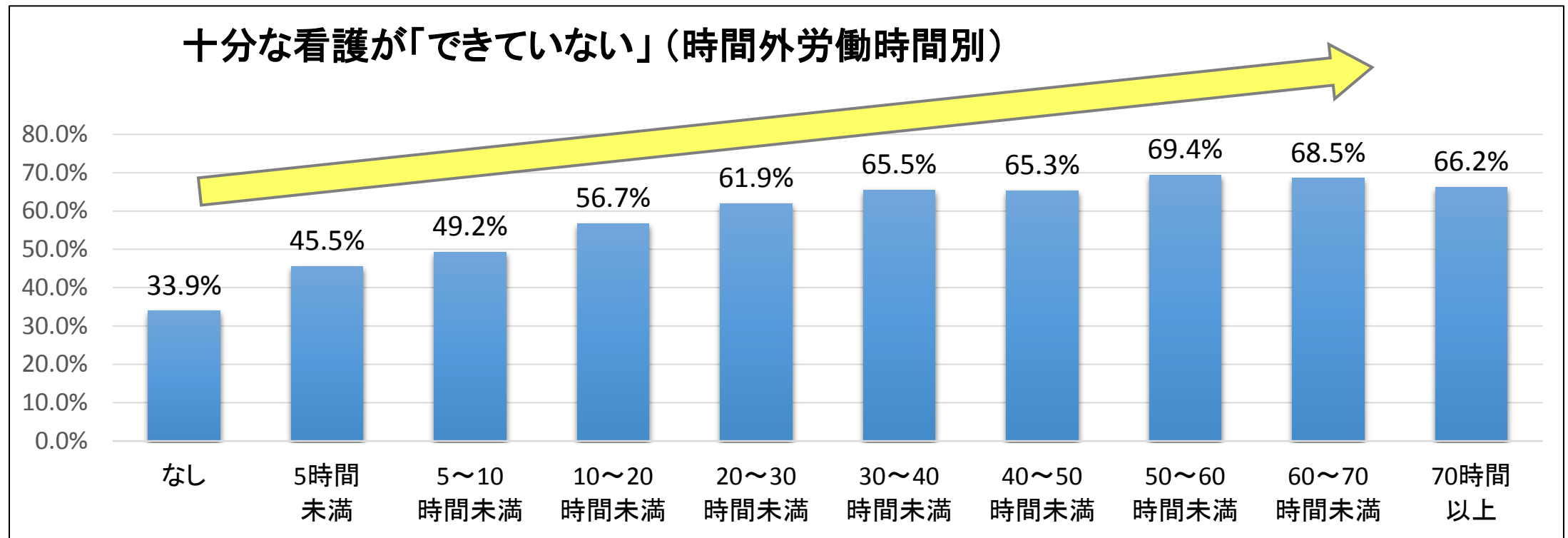
十分な看護が「できていない」(勤務形態別)



日勤のみに対し、夜勤交替制勤務が5割を超えて高率になっている。

# 十分な看護が「できていない」 (時間外労働時間別)

仕事に  
対する意識



時間外労働が増えるにつれて、十分な看護が「できていない」も増加傾向となっている。

# 十分な看護が「できていない」 (休憩時間の取得程度別)

十分な看護が「できていない」(休憩時間の取得程度別)

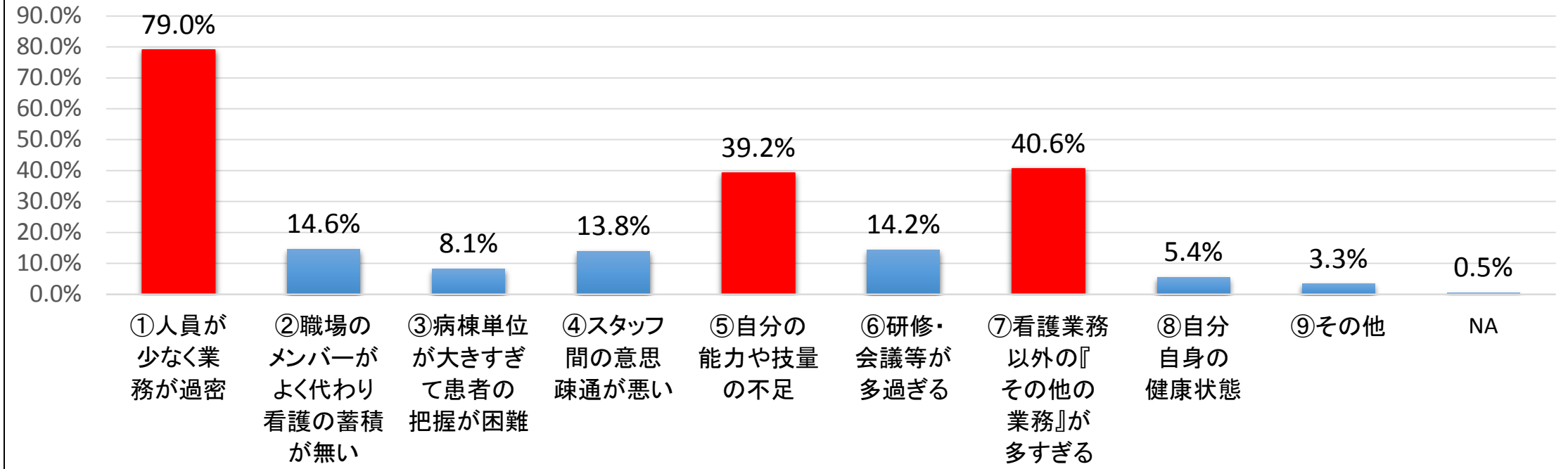
	日勤	準夜	深夜	2交替夜勤	2交替仮眠
きちんと取れている	33.4%	32.9%	36.4%	33.0%	34.9%
大体とれている	48.4%	46.2%	50.2%	48.7%	49.9%
あまり取れていない	59.9%	60.1%	62.3%	61.5%	57.4%
全く取れていない	68.3%	65.1%	65.3%	67.3%	59.8%

休憩時間が「大体とれている」で約5割、「あまり取れていない」で約6割、「全く取れていない」では7割近くが十分な看護が「できていない」と回答。

# 十分な看護ができない理由

仕事に  
対する意識

十分な看護ができない主な理由(上位3つ以内選択)

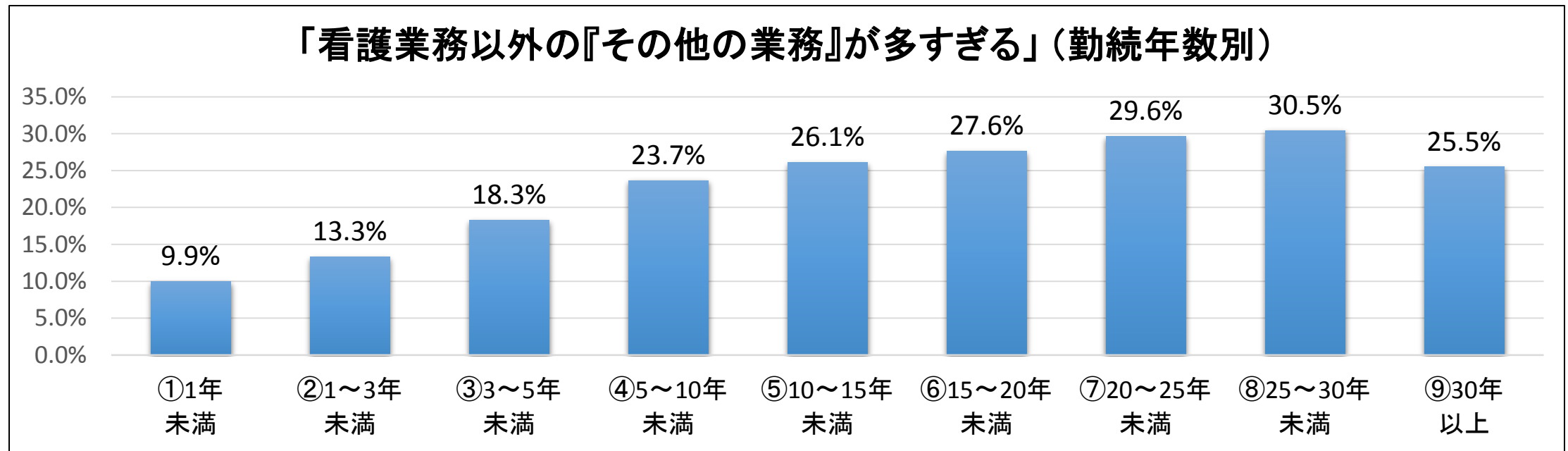


- 医療現場の人員不足が十分な看護を阻んでいる。
- 背景には長時間の時間外労働と休憩時間が関係していると考えられ、早急な対策が求められる。



# 看護業務に専念したくてもできない ベテラン看護師が高率

仕事に  
対する意識



経験年数が増えるにつれて、看護業務以外の業務が多すぎると回答した者も増えている。若年層の教育に影響及ぼしている可能性が懸念される。

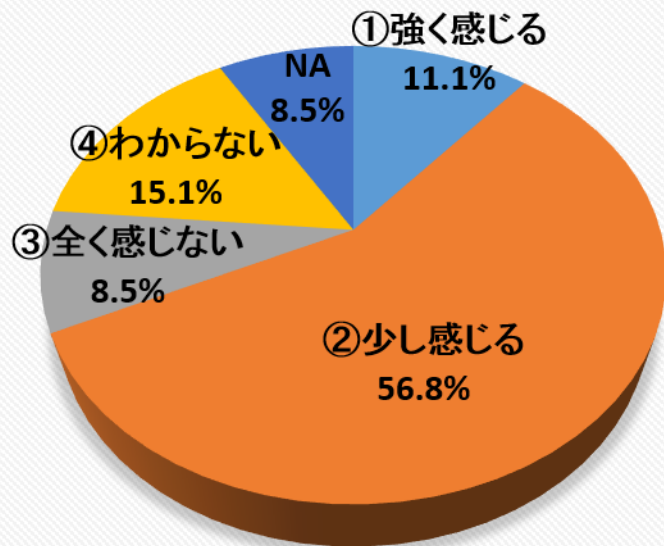
仕事に  
対する意識

# 仕事の やりがい

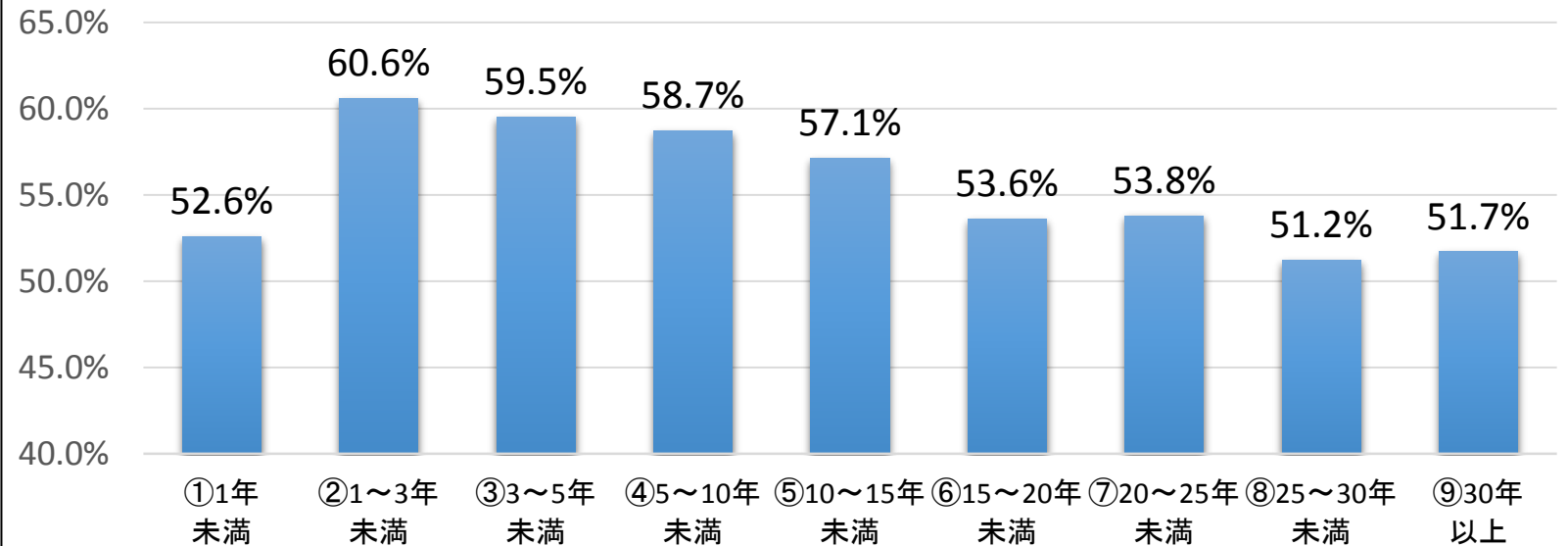
# 看護のやりがい 「少し感じる」が約6割で最多

仕事に  
対する意識

看護に対する「やりがい」



看護のやりがい「少し感じる」(勤続年数別)

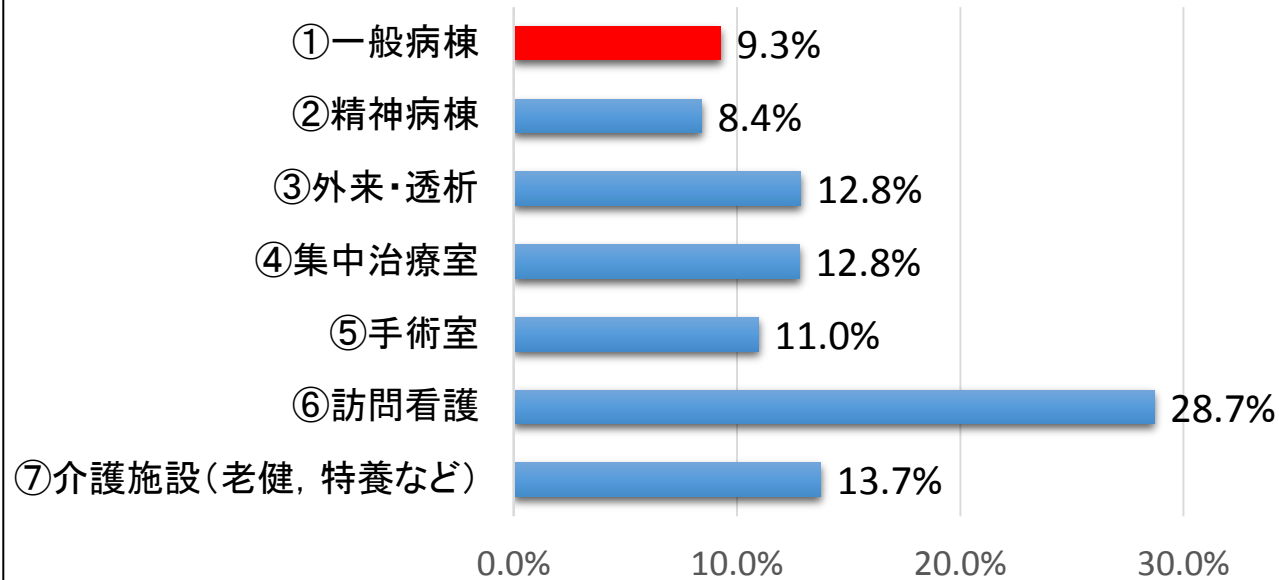


ベテラン層が、やりがいを「少し感じる」で若手～中堅層より低い結果。業務の忙しさに追われ、魅力ある看護を実感しにくくなっているためか。

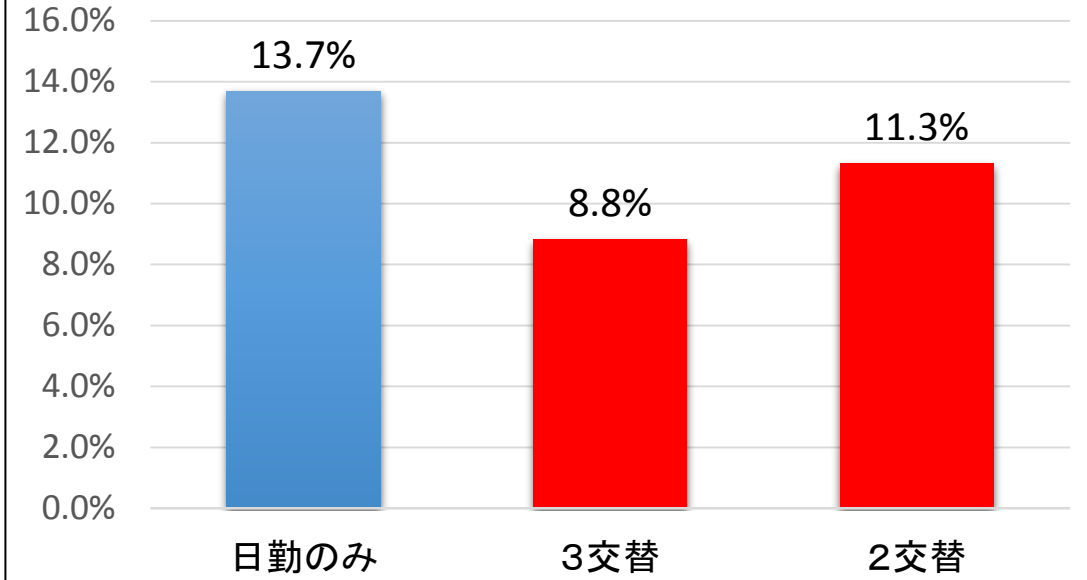
# 看護のやりがいを「強く感じる」 一般病棟で低く、夜勤交替制で低い結果

仕事に  
対する意識

やりがいを「強く感じる」(働く職場別)



やりがいを「強く感じる」(勤務形態別)



忙しすぎる病棟では、やりがいを感じる余裕がなく、病棟での夜勤交替制が過重負担になっていると推測できる。

# 看護のやりがい「全く感じない」 「休憩時間」取得できないほど高率

仕事に  
対する意識

看護のやりがい「全く感じない」(休憩時間の取得程度別・勤務体制別)

	日勤	準夜	深夜	2交替夜勤	2交替仮眠
きちんと取れている(A)	6.1%	8.4%	7.2%	5.8%	6.7%
大体とれている	8.3%	8.1%	9.2%	7.8%	7.6%
あまり取れていない	12.6%	11.3%	13.5%	11.7%	11.9%
全く取れていない(B)	18.8%	19.1%	20.7%	28.0%	19.6%
(B)－(A)	12.7%	10.7%	13.4%	22.2%	12.9%

3交替と比べ、2交替夜勤では「休憩時間」が取得できないほど、やりがいを「全く感じない」が高くなる傾向は顕著。

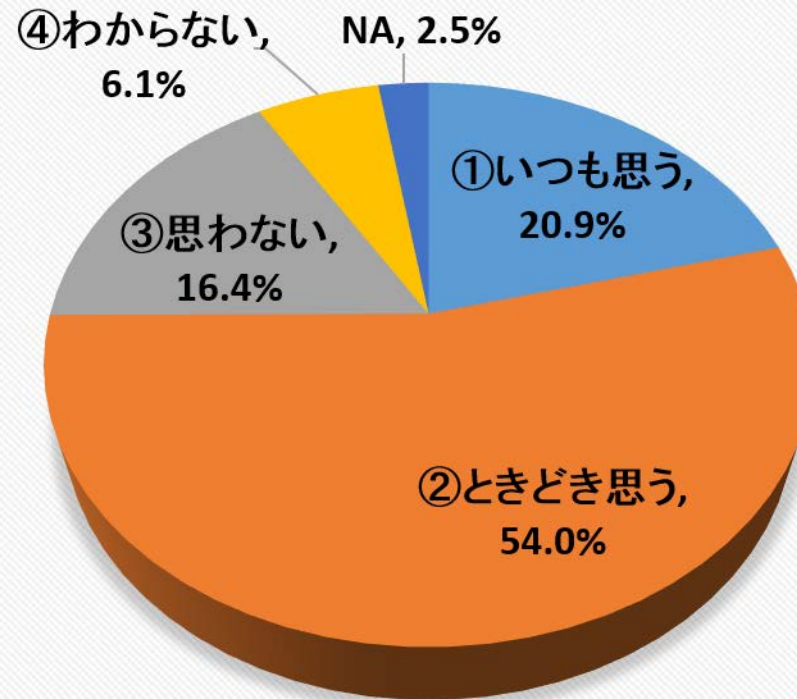
仕事を  
辞めたい……

# 看護師の約7割「仕事を辞めたい」

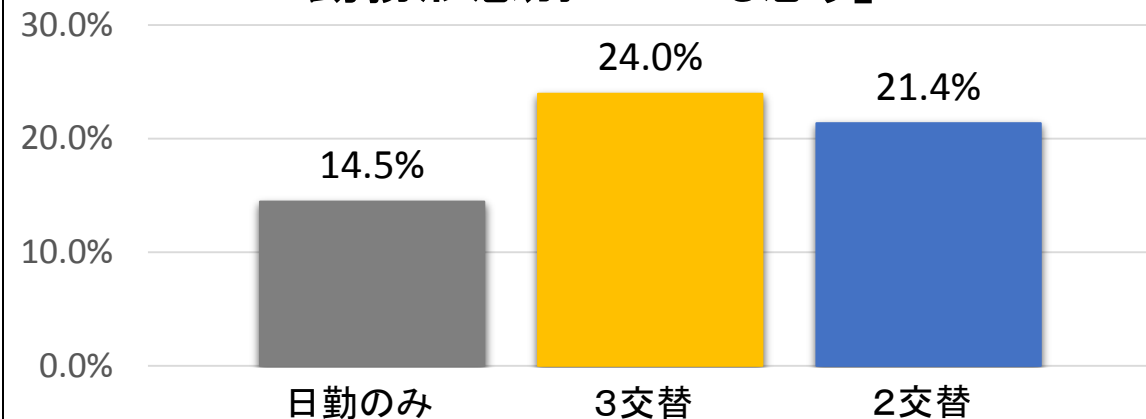
仕事に  
対する意識

■仕事を辞めたいと、	
「いつも思う」	20.9%
「ときどき思う」	54.0%
合合わせると	74.9%

「仕事を辞めたい」と思うこと

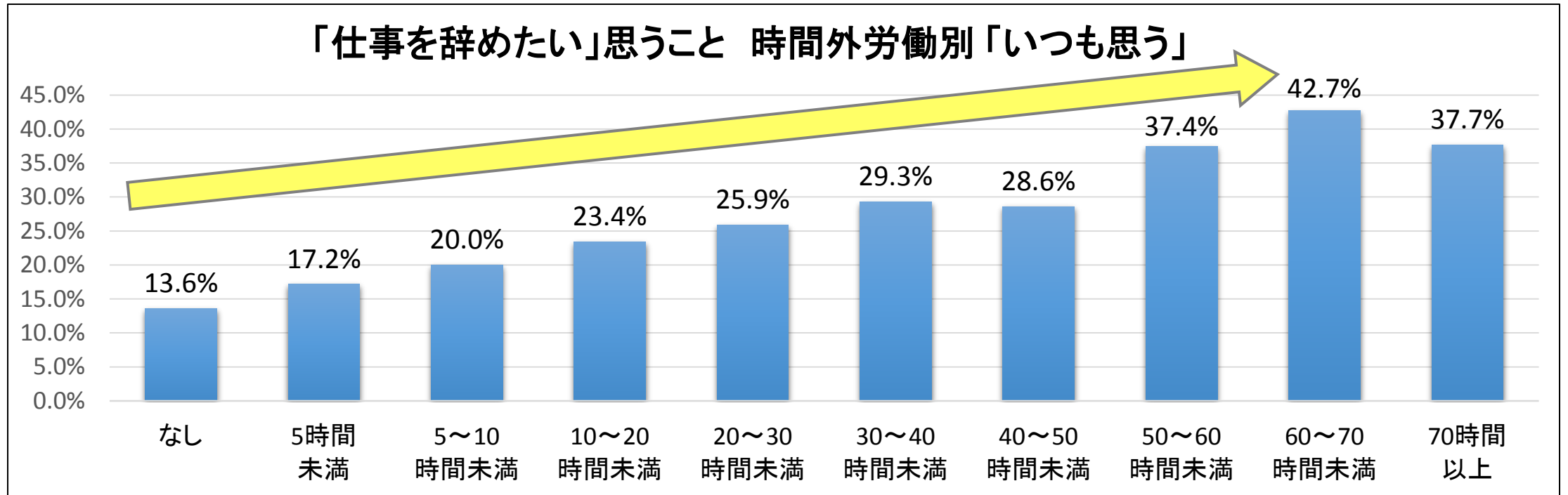


勤務形態別「いつも思う」



# 仕事を辞めたいと「いつも思う」 時間外労働の増加と比例する結果

仕事に  
対する意識



時間外労働が増加すると、仕事を辞めたいと「いつも思う」も増加。時間外労働を減らす対策が急務。



# 仕事を辞めたいと「いつも思う」 休憩時間の取得程度が大きく影響

仕事に  
対する意識

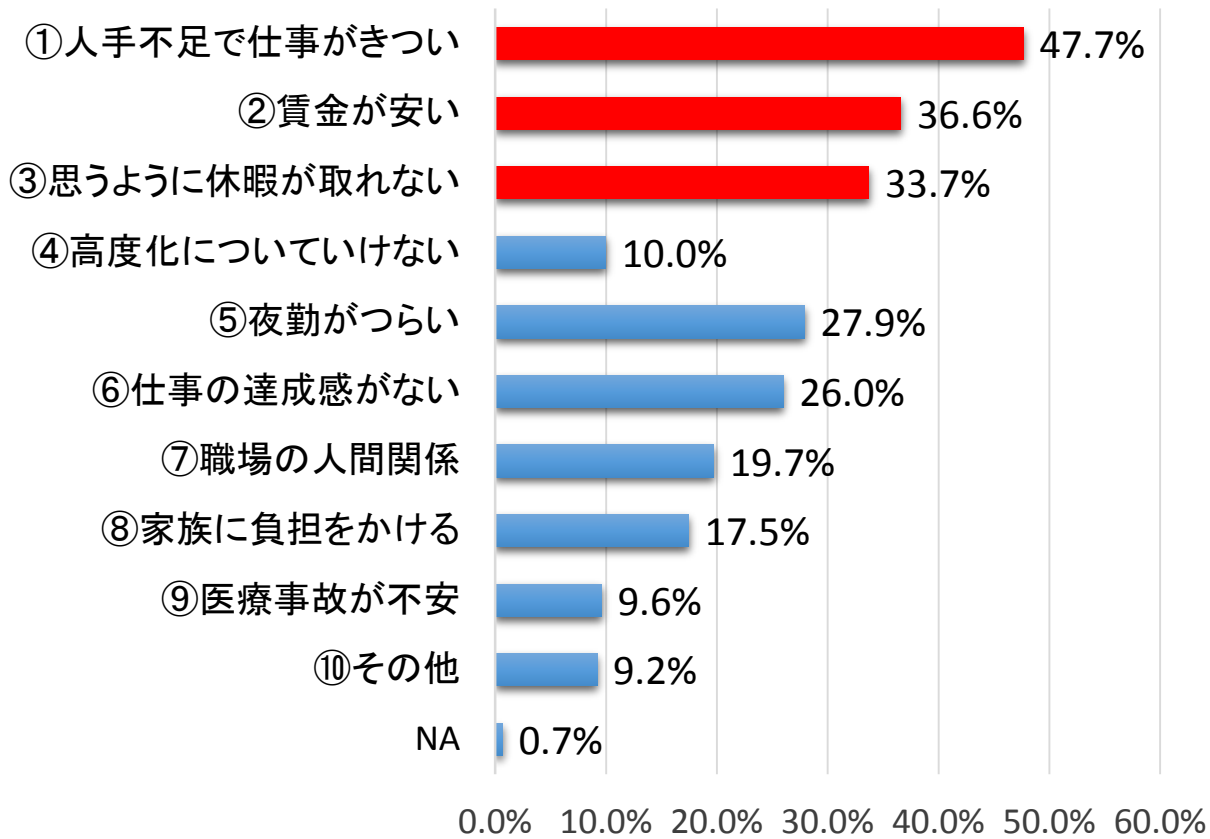
仕事を辞めたいと「いつも思う」(休憩時間の取得程度別・勤務体制別)					
	日勤	準夜	深夜	2交替夜勤	2交替仮眠
きちんと取れている(A)	14.4%	16.1%	16.6%	14.4%	15.5%
大体とれている	21.0%	19.7%	22.4%	19.7%	20.4%
あまり取れていない	30.9%	28.6%	32.0%	33.4%	31.7%
全く取れていない(B)	41.1%	39.6%	41.2%	50.5%	35.6%
(B) - (A)	26.6%	23.5%	24.6%	36.1%	20.1%

各勤務とも、休憩時間が「全く取れていない(B)」は「きちんと取れている」より2~3倍高い結果となった。

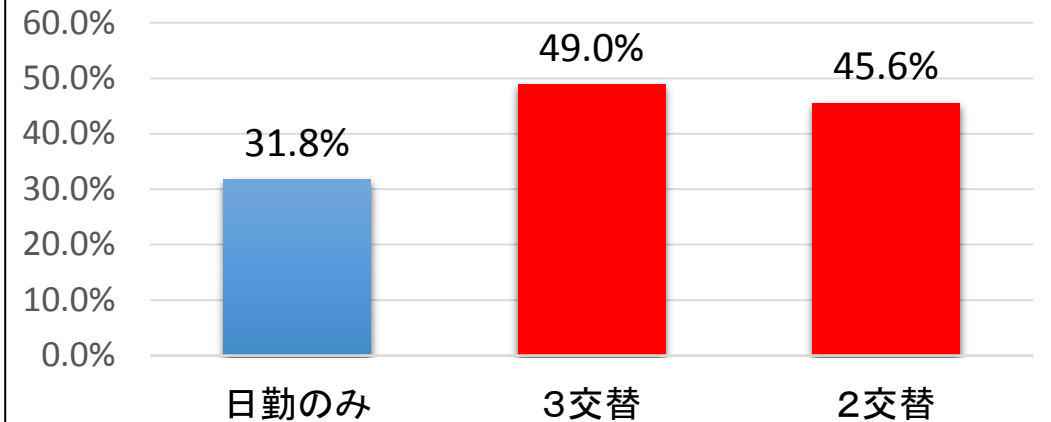
# 仕事を辞めたい理由

仕事に  
対する意識

## 仕事を辞めたいと思う理由



## 「人手不足で仕事がつらい」 (勤務形態別)



ここでも夜勤者の負担が  
離職の要因となっている  
ことがうかがえる。

まとめ

- ◆看護職場の人手不足と過重負担は依然深刻であり、過酷な実態が明らかになった。
- ◆政府の改善策の効果がうすく、現場実態の改善には至っていない。

**やはり労働環境改善のための法的規制が必要**



このままでは、  
**安全・安心**な**医療・看護**の  
提供が危ぶまれる事態。

**声をあげよう!!!**



**署名に  
取り組もう!!!**

## めざすべき看護体制の提言（病棟・一部抜粋）

- ◆2007年の国会請願採択「日勤は患者4人に看護師1人、夜勤は患者10人に看護師1人以上」を基本とする。
- ◆8時間労働で生体リズムに合った正循環勤務とするため、「夜勤のための勤務免除」を設け、週32時間労働とする。



夜勤のための勤務免除

## めざすべき看護体制の提言（病棟・一部抜粋）

- ◆ 完全週休2日制と諸休日・休暇を完全取得できる体制とする。
- ◆ 1看護単位は40床とし、病床数は現状の医療提供体制を前提として試算する。
- ◆ 夜勤は、3交替5人体制で、月6日以内（当面8日以内）とする。（休憩時間等も含め、夜勤時間帯の常時4人確保のためには少なくとも5人体制が必要）

# めざすべき看護体制の提言(病棟・一部抜粋)

## \* 休みを保障する指数

完全週休2日、諸休日・休暇の完全取得、「夜勤のための勤務免除」のための指数。

休みを保障する指数 =  $365 \div (365 - \text{【夜勤のための勤務免除】} 52 - \text{日曜} 52 - \text{土曜} 52 - \text{祝休日} 15 - \text{年末年始} 5 - \text{夏季休暇} 3 - \text{生休} 13 - \text{年休} 20) = 2.39$

## \* 1看護単位(40床)の看護職員必要数

日勤患者4人に看護師1人、5人夜勤体制に必要な人数。

(準夜5 + 深夜5 + 日勤10) × 休み保障する指数2.39 + 師長1 = 48.8 ÷ 49人

**☆全国の必要数** 171万床として(2015年厚労省)

全国の必要人員 = 49人 × (171万床 ÷ 40床) = 209万4,750人 ÷ **210万人**



日本医労連 / 2014年9月発行

# めざすべき看護体制の提言(全体)

病棟	210万人
外来	36万5,000人
訪問看護	14万4,000人
介護保険関係、学校養成所、保健所など	23万7,700人+α

《厚労省》平成28年度 衛生行政報告  
就業場所別にみた就業保健師等(常勤換算数)

**合計141万9,646人** (平成28年末現在)

政府推計

高齢化がピークとなる2025年には、  
看護職員**200万人**が必要としている。

**合計300万人**

**2倍以上!!**

政府推計でみても、  
**100万人足りない。**

# 夜勤改善・大幅増員で 安全・安心の医療・看護の実現を

看護職員が健康でいきいきと  
働き続けられる労働環境の実  
現を目指して、全国の仲間と  
力を合わせて頑張ろう！

